

防災体制の再構築を実施



5月に発生した三陸南地震の教訓から、市では職員の震度別初動体制を確立し、移動無線機11台を導入して通信手段の確保を図るなど、将来

の宮城沖地震に備え、防災体制の再構築を行いました。また、4月に宮城県と市が共催で、協力体制の強化と防ぎよ技術の向上を図るため、蔵王山麓を会場に大規模な林野火災防ぎよ訓練を実施したのははじめ、市消防団「春の消防演習」では、市内全68班へのポンプ積載車配備完了を機に、白石川に向けて一斉放水を実施するなど、着々と防災体制を整えつつあります。

角田養護学校白石校が開校

4月10日、白石第二小学校内に空き教室を利用して、角田養護学校小学部の分校、「角田養護学校白石校」が開校しました。現在同校には、市内や蔵王町、七ヶ宿町から9名の児童が通学しています。



既設校への養護学校分校設置は県内で初めてで、児童の通学時間の大幅な短縮が図られ、第二小学校児童との相互交流も実施されるなど、児童や保護者たちは地域で学べる喜びを実感しています。今春には、白石中学校内にも角田養護学校中学部の分校が開校予定です。

市町村合併問題に向けて

市民の皆さんが判断し、決定していく市町村合併問題。1月29日、刈田地方(白石市・蔵王町・七ヶ宿町)の一市二町は、「合併に関する共同研究会」を設立し、合併のメリット・デメリットや合併後の各種想定などを研究しました。研究成果は冊子にまとめ、市民の皆さんの判断資料として6月に各世帯に配布しました。10月には市長・関係職員が市内各地区を回って意見交換会を実施し、さらに12月1日、市民の皆さんの判断資料や情報提供の体制整備などを目的に、市総務部内に「合併対策室」を新たに設置しました。



今後は白石市と蔵王町による任意合併協議会で合併の具体的なモデルを作成し、市民の皆さんにお示しします。

ふれあいプラザ・シルバーハウジングなどが完成

高齢者・親子の世代間交流、男女共同参画の活動拠点を設け、まちなかの賑わい創出を図るため、本町地区に整備していた「ふれあいプラザ」が4月にオープンし、市デイサービスセンター「ぶな」も同敷地内にあわせてオープンしました。



また、鷹巣区画整理地内に整備していた高齢者や障害者に配慮した公営住宅、「シルバーハウジング」の入居も開始され、ハード・ソフト両面から福祉サービスを提供するなど、白石型福祉を着々と推進しています。

材木岩公園内の検断屋敷・休憩施設がオープン

地域振興と農林産物の地産地消を目指して、小原地区の材木岩公園内に移築復原していた検断屋敷(旧木村家)と休憩施設(農家レストラン「そば処小原なごみ茶屋」・農林産物直売所「小原いきいき直売所」)が3月末にオープンしました。両施設は、当時の歴史や文化を知る貴重な文化遺産として、また、小原の地域活性化を促す観光名所として定着し、市内外から大勢の人々が訪れています。



さらに小原地区では、きれいな水と休耕田を利用して、「モクズガニ」と「カワエビ」を養殖する試みも始められています。

重要無形文化財「宮中雅楽」特別公演



平成16年4月に市制施行50周年を迎える白石市。8月に開催された「全日本学生新体操選手権大会」を皮切りに、多彩な記念事業が市民の皆さんとのパートナーシップにより始まりました。

10月に催された重要無形文化財「宮中雅楽」特別公演は、大都市を中心に年1、2回しか行われていない大変貴重な公演で、白石市にとって空前絶後ともいえるものでした。小中学生が対象の雅楽教室と一般向けの雅楽公演、合わせて約4,800人の観客が、いにしへの響き・典雅な舞を堪能し、雅楽の魅力に酔いしれました。

産廃処分場裁判で勝訴

水と自然環境を守り続けるために



小原上戸沢地区の産廃処分場建設計画をめぐる、業者が賠償請求と謝罪広告を求め、市などを訴えていた訴訟で、2月、最高裁は業者側の上告を棄却し、市の

勝訴が確定しました。

業者側が県の設置不許可処分の取り消しを求めた訴訟では、6月に業者側が請求の一部を取り下げ、今後、許可を求めて再申請を行う動きも出ています。

9月には、福岡深谷地区で産業廃棄物の汚泥を肥料と偽り大量に埋め立てた新たな事件も発覚しました。

市民の財産である水と自然環境を守るため、今後も市民の皆さんとともに粘り強い運動を継続していきます。

生ごみ資源化事業所「シリウス」が本格稼働

環境保全・「環境都市」の実現を目指して

福岡長袋地区に整備を進めていた、資源循環型社会の実現を目指し、食料と農業、環境の大切さを学ぶ生ごみ資源化事業所、「シリウス」が、4月から本格稼働して、生ごみ発電を開始しました。

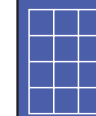


福岡蔵本の尾籠地区では、5月に「薬師堂ホタルの里を守る会」を設立し、地域の環境美化に取り組んでいるのを始め、市内の各自治会や事業所などでも、ごみの減量化やリサイクルを積極的に推進し、市内一斉クリーン作戦などの活動を盛んに行うなど、市民と行政それぞれが力を合わせて環境保全に取り組んでいます。

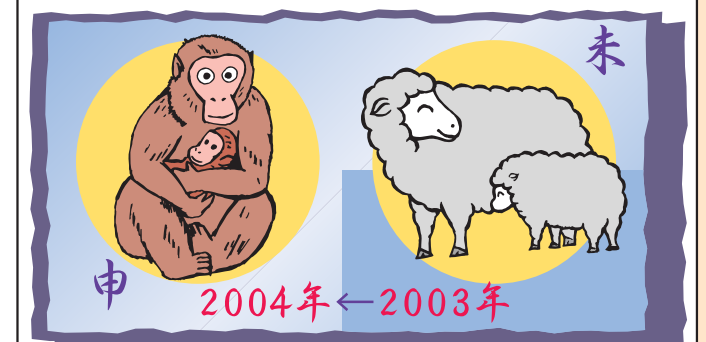
夏季の異常気象により農作物に被害

7月以降の長雨や低温、日照不足といった異常気象のため、水稻の不稔障害やいもち病が発生するなど、昨年は平成5年以来の冷害となりました。

市や市議会、農協などの関係機関では、「白石市農作物異常気象災害対策本部」を設置して、被害の把握と拡大防止に努め、いもち病の追加防除に対する助成を行いました。また、市では平年に比べ30%以上の損失があった方の市県民税、国民健康保険税、介護保険料の減免も実施しています。



平成15年 市長の目から見た
白石市の10大ニュース



市議会議員選挙を電子投票で実施

市民の利便性の向上・事務の効率化を目指して



情報を活用するまちづくりとIT基盤の確立を推進する施策の一環として、4月27日、全国で3番目、東北地方では初の電子投票による白石市議会議員選挙が実施され、新市議会議員24名が誕生しました。事前の模擬投票や職員研修の実施など、万全の体制で臨んだ電子投票。おおむね順調に投票が行われ、開票時間は前回市議会議員選挙の半分以下の時間で終了し、電子投票分には無効票が全く発生しないなど、「市民の利便性の向上・事務の効率化」という所期の目的を達成しました。

心よりお見舞い
申し上げます

